

<後の日に見出す祝福>

伝道者の書 11 : 1 ~ 6

◆ソロモン王が書いたとされる

イスラエルの黄金時代を築いたソロモン王。権力や知性や名誉や財産など、人がうらやむものをすべて手にしたが、その心は満たされなかった。

空の空。すべは空。日の下でどんなに労苦してもそれが人に何の益になろう。
一つの時代は去り、次の時代が来る。しかし地はいつまでも変わらない。日は上り、
日は沈みもとの上る所に帰っていく。 伝道者の書 1 : 2 ~ 4

空・・・「一時的で、はかない」

あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。 伝道者の書 12 : 1

神を抜きにして、自分を満足させる人生を求めてもそれはむなししい。

あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出そう。【1節】

申命記の教えが背後にある

必ず彼に与えなさい。また、与えるとき物惜しみをしてはならない。このことのゆえに、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださるからである。 申命記 15 : 10

何の疑いもなく、水の上に投げられるだろうか・・・？

損してしまわないか？ いつ、どんなふうに見つけられるのか・・・？不確か。

風を警戒している人は種を蒔かない。雲を見ている者は刈り入れをしない。あなたは妊婦の体内の骨々のことと同様、風の道がどのようなものか知らない。そのように、あなたはいつさいを行われる神のみわざを知らない。朝のうちにあなたの種を蒔け。夕方も手を放してはいけなない。あなたは、あれか、これか、どこで成功するのか知らないからだ。二つとも同じようにうまくいかもわからない。【4～6節】

◆農夫は種を蒔く時、既に思いの中でその種はパンになっていた。

善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て刈り取ることになります。

ガラテヤ 6 : 9

何故、二の足を踏んで躊躇してしまうのか？

風を警戒している人は種をまかない。雲を見ている者は刈り入れをしない。【4節】

風の強い日は種が飛ばされ、蒔いた種が無駄になる恐れがある。

雲は雨の前兆。雨が降りそうな雲を見ると刈り入れに行くことを躊躇する。

しかし、神様がなさることは私たちに計算できない。

あなたは妊婦の胎内の骨々ことと同様、風の道がどのようなものか知らない。そのようにあなたはいっさいを行われる神のみわざを知らない。朝のうちにあなたの種を蒔け。夕方も手を放してはならない。あなたは、あれか、これか、どこで成功するのか、知らないからだ。二つとも同じようにうまくいかもわからない。【5、6節】

朝のうち・・・一日の始まり　　活力の溢れた若き時代。

夕暮れ時・・・一日の終わり　　人生の老いの時期。

年を重ねても尚、主からの使命がある！

事の全ては主の手の中にある。

神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。蒔く人に種と食べるパンを備えて下さる方は、あなたがたも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。Ⅱコリント9：8～11